

科学技術コミュニケーション推進事業機関活動支援型
平成 26 年度採択企画
実施報告書

1. 企画名

被災地支援サイエンスキャンプ

2. 提案機関名

公益財団法人つくば科学万博記念財団

3. 提案企画の概要

東日本大震災から 3 年になるにもかかわらず、被災地の子供たちは、科学に対する興味が生える大事な時期に、科学に接する機会が少なくなっている。このような子供たちが科学の意義を学ぶことで、科学者や技術者を目指す志を持つことを願い、科学の街つくばより出かけて科学体験教室を行う。

提案機関の（公財）つくば科学万博記念財団は科学館「つくばエキスポセンター」を運営するとともに、その教育資源を活用したアウトリーチ活動を年間約 100 件行っている。しかし、その活動は近隣に限られているため、福島への支援の実績のある NPO 法人と連携して、福島県いわき市へのアウトリーチ活動を実施する。そして、外部の地域支援団体との連携の有効性を検証する。

4. 企画の特徴

本提案の活動は次の特徴をもつ。

- ・一泊二日の宿泊学習の形態であるため、子供たちには貴重な体験となる。
- ・科学の街つくばより、研究者・技術者 OB、学校教員 OB を中心とした講師陣で、被災地の子供たちへの支援を行う。
- ・当財団は出前活動の豊富な実績をもっており、本提案はそれを生かした活動である。
- ・当財団の出前活動は近隣に限られていたが、支援活動に慣れた団体と連携することでより広範囲に拡張した出前活動に発展させようとするものである。

5. 総合所見

目標の成果が得られ、科学技術コミュニケーションが推進された。

複数の団体と連携し、概ね当初の計画通りに実施できた。参加した子どもたちの感想や科学への関心度の変化を把握するべく、詳細なアンケート分析・考察を行っており、さらに今回の活動の成果を踏まえた今後の展開、発展させるビジョンが明確に示されている点は評価できる。

今後は、被災地の何らかのニーズにマッチさせるなど構想に工夫を施し、さらなる発展に期待したい。

6. 実施者からPR・感想について

子供たちに科学に関心を持ってもらうには、やはり、体験をとおして楽しんでもらうことが第一と考えられる。それが、後に、子供たちが主体的に科学を勉強することに繋がると思う。

子供たちに科学・技術の魅力を伝える活動を、市民活動団体や学生サークルと連携して行うことで、イベントの運営が円滑にでき、レクリエーションも加えることができた。そのことにより、より広範囲の子供たちへの科学技術の普及に役立ったと思われる。

学校の外での活動ということで、科学教室を遊びやレクリエーションと融合した形で行うことが、特に子供たち向けには効果的と感じた。



[科学教室の様子]



[エアドームの内面に星空
を写すプラネタリウム]

以上